

【 復活トロパリ 第2調 】

しせざるいのちよ、なんぢしにくだりし  
死 生 命 爾 死 降

とおき、かみのせいひかりにてぢご  
時 神 性 光 地 獄

くをころせえり。しせしものをちかよ  
殺 死 者 地下

りふくかつせしめしとおき、てんぐんみな  
復 活 時 天 軍 皆

よびていええり、いのちをたもうしゆ  
呼 日 生 命 賜 主

ハリストスわがかみよ、こうえいはなんぢに  
吾 神 光 榮 爾

きいす。

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

しととひとしくどうざなるもの、ちゆう  
使 徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい  
實 神 智 役 者 聖

なるしんにえられたるふえ、ハリストスのあい  
神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう  
 満器我 國光  
 しょおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ  
 照者亜使徒主教聖  
 よ、なんぢのぼくぐんのためあめ、および  
 爾羊群爲及  
 ぜんせかいのため、いのちをたもうせい  
 全世界爲生命賜聖  
 さんしゃにいのりたまえ。  
 三者祈給

【日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調】

こうえいはちちとこおとせいしんにき  
 光榮父子おと聖神歸  
 す、  
 せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが  
 成聖者亜使徒聖我  
 くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ  
 國爾旅人及異邦人受  
 しに、なんぢははじめわがくににおいておの  
 爾初我 國於己  
 れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの  
 外來者知

ひかりとあたたかきをながし、なんちのて  
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことなあし、かれらにか  
屬 神 子 爲 彼 等 神

みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて  
恩 寵 與 教 會 建

たり、いまこのきょうかいのためにいのり  
今 此 教 會 爲 祈

たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん  
給 蓋 我 等 其 諸 子 爾

ちによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ  
呼 我 善 牧 者 慶

べよ。

【 復活のコンダク 第2調 】

いまもいつもよよに、アミン。  
今 何 時 世 世

ぜんのおのきゅうせいしゅよ、なんちはかよりふ  
全 能 救 世 主 爾 墓 復

くかつせしに、ぢごくはきせきをみて  
活 地 獄 奇 蹟 見

おののき、ししやおおき、ぞうぶ  
慄 死 者 起 造 物

つはみてなんぢとともによろこび、アダムは  
見 爾 借 喜

ともにたのしいみ、わがきゆうせいしゅ  
共 樂 我 救 世 主

よ、せかいはつねになんぢをほめうとお  
世界 常 爾 讃 歌

お う。

【 聖三の歌 】

代禱) <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>けいけん</sup>敬虔なる<sup>もの</sup>者を<sup>すく</sup>救い、<sup>およ</sup>及び<sup>われら</sup>我等に<sup>き</sup>聆き<sup>たま</sup>給え、

しゅよ、けいけんなるものをすくい、およびわれ  
主 敬 虔 者 救 及 我

らにききたまえ。  
等 聆 給

代禱) <sup>よよ</sup>世に、

ア ミ ン。

【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
聖 神 聖 勇 毅 聖

じょうせいのものよ、われらをあわれめ  
常 生 者 我 等 を 憐 愍

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれめよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれめよ。こうえいはちとことせいしんにきす、いまもいつもよよに、アミン。せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれめよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなるじょうせいのものよ、われらをあわれめよ。

【 プロキメン 提綱 主日第2調 】

代禱) 睿智、

誦經) プロキメン、主は、我が力、我が歌なり、彼は我が救となれり、

しゅ は わ が ち か ら 、 わ が う た な り 、 か れ は わ  
 主 我 力 我 歌 彼 我  
 が す く い と お な あ れ り 。  
 救

誦經) <sup>しゅ きび われ ばつ</sup> 主は厳しく我を罰したれども、<sup>われ し わた</sup> 我を死に付さざりき、

しゅ は わ が ち か ら 、 わ が う た な り 、 か れ は わ  
 主 我 力 我 歌 彼 我  
 が す く い と お な あ れ り 。  
 救

誦經) <sup>しゅ わ ちから わ うた</sup> 主は、我が力、我が歌なり、

か れ は わ が す く い と お な あ れ り 。  
 彼 我 救

【 <sup>アポストロス</sup> 使徒經 233 端 エフェス書 6 章 10 節～17 節 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>せいしと</sup> 聖使徒パヴェルがエフェス人<sup>じん たつ</sup>に達する書<sup>しょ よみ</sup>の讀、

代禱) <sup>つつし</sup> 謹みて聽くべし、

誦經) <sup>けいてい</sup> 兄弟よ、<sup>しゅおよ</sup> 主<sup>そのけん</sup> 及び其<sup>ちから</sup> 權<sup>よ</sup> の力<sup>けんご</sup> に頼<sup>かみ</sup>りて堅<sup>ぜんび</sup>固<sup>ぶぐ</sup>になれ。神<sup>き</sup>の全<sup>なんぢら</sup>備<sup>あく</sup>の武<sup>あ</sup>具<sup>く</sup>を衣<sup>ま</sup>よ、爾<sup>なんぢら</sup>等<sup>あく</sup>が惡

<sup>ま</sup> 魔<sup>はかりごと</sup>の奸<sup>ふせ</sup>計<sup>え</sup>を禦<sup>ため</sup>ぐを得<sup>けだしわれら</sup>ん爲<sup>たたかい</sup>なり、蓋<sup>けつにく</sup> 我<sup>おい</sup>等<sup>あら</sup>の戰<sup>すなわちしゅ</sup> は血<sup>あ</sup>肉<sup>く</sup>に於<sup>てんくう</sup>てするに非<sup>あ</sup>ず、乃<sup>あ</sup> 首<sup>き</sup>

<sup>りょう</sup> 領<sup>おい</sup>に於<sup>けんべい</sup>てし、權<sup>おい</sup>柄<sup>こ</sup>に於<sup>よ</sup>てし、此<sup>くらやみ</sup>の世<sup>せくん</sup>の暗<sup>おい</sup>昧<sup>てんくう</sup>の世<sup>あ</sup>君<sup>き</sup>に於<sup>しよ</sup>てし、天<sup>あ</sup>空<sup>き</sup>に在<sup>あ</sup>る凶<sup>あ</sup>惡<sup>あ</sup>の諸<sup>しよ</sup>

<sup>しん</sup> 神<sup>おい</sup>に於<sup>これ</sup>てするなり。此<sup>よ</sup>に因<sup>かみ</sup>りて神<sup>ぜんび</sup>の全<sup>ぶぐ</sup>備<sup>と</sup>の武<sup>あ</sup>具<sup>ひ</sup>を取<sup>おい</sup>れ、惡<sup>ふせぎ</sup>しき日<sup>な</sup>に於<sup>およそ</sup>て 禦<sup>あ</sup>を爲<sup>あ</sup>し、凡<sup>あ</sup>の

<sup>こと</sup> 事<sup>じょうじゆ</sup>を成<sup>た</sup>就<sup>え</sup>して、立<sup>ゆえ</sup>つを得<sup>た</sup>ん爲<sup>しんじつ</sup>なり。故<sup>なんぢら</sup>に立<sup>こし</sup>ちて、眞<sup>つか</sup>實<sup>ぎ</sup>を爾<sup>よ</sup>等<sup>い</sup>の腰<sup>ぎ</sup>に束<sup>よ</sup>ね、義<sup>い</sup>の甲<sup>い</sup>を

<sup>き</sup> 衣<sup>わへい</sup>、和<sup>ふくいん</sup>平<sup>よ</sup>を福<sup>もつ</sup>音<sup>あし</sup>する預<sup>くつ</sup>備<sup>さ</sup>を以<sup>しん</sup>て足<sup>た</sup>に履<sup>と</sup>はき、更<sup>これ</sup>に信<sup>もつ</sup>の盾<sup>あ</sup>を取<sup>あ</sup>れ、之<sup>ことごと</sup>を以<sup>あ</sup>て惡<sup>あ</sup>敵<sup>あ</sup>の悉<sup>あ</sup>

<sup>ひや</sup> くの火<sup>け</sup>箭<sup>え</sup>を滅<sup>またすくい</sup>すを得<sup>かぶと</sup>ん、又<sup>およ</sup> 救<sup>しん</sup>の胃<sup>つるぎ</sup>、及<sup>すなわちかみ</sup>び神<sup>ことば</sup>の劍<sup>と</sup>、即<sup>と</sup> 神<sup>あ</sup>の言<sup>あ</sup>を取<sup>あ</sup>れ。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ、主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に  
対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するもので  
はなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いであ  
る。それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神  
の武具を身につけなさい。すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当を胸につけ、平和の  
福音の備えを足にはき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ  
火の矢を消すことができるであろう。また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を  
取りなさい。

\*\*\*\*\*

【 アリルイヤ 主日第2調 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) アリルイヤ、

Arieleia, Arieleia,  
Arieleia.

誦經) <sup>ねが</sup>願わ<sup>しゅ</sup>くは主は<sup>うれい</sup>憂<sup>ひ</sup>の日に<sup>おい</sup>於て<sup>なんぢ</sup>爾に<sup>き</sup>聴き、<sup>かみ</sup>イアコフの神の名は<sup>なんぢ</sup>爾<sup>ふせ</sup>を<sup>まも</sup>扨ぎ衛らん、

Arieleia, Arieleia,  
Arieleia.

誦經) <sup>しゅ</sup>主よ、<sup>おう</sup>王を<sup>すく</sup>救え、<sup>またわれら</sup>又我等が<sup>なんぢ</sup>爾に<sup>よ</sup>呼ばん時、<sup>とき</sup>我等に<sup>われら</sup>聴き<sup>き</sup>給え、<sup>たま</sup>

Arieleia, Arieleia,  
Arieleia.

【 エヴァンゲリオン 福音經 85 端 17 章 12~19 節 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) アリルイヤ、

【 アリルイヤ 主日第2調 】

アリル イ ヤ、 アリル イ ヤ、  
ア リル イ ヤ。

誦經) <sup>ねが</sup>願わくは主は <sup>しゅ</sup>憂 <sup>うれい</sup>の日に於て <sup>ひ</sup>爾 <sup>おい</sup>に聴き、 <sup>なんぢ</sup>イアコフの神の名は <sup>き</sup>爾 <sup>かみ</sup>を扞ぎ衛らん、 <sup>な</sup> <sup>なんぢ</sup> <sup>ふせ</sup> <sup>まも</sup>

アリル イ ヤ、 アリル イ ヤ、  
ア リル イ ヤ。

誦經) <sup>しゅ</sup>主よ、 <sup>おう</sup>王を救え、 <sup>すく</sup>又我等が <sup>またわれら</sup>爾 <sup>なんぢ</sup>に呼ばん時、 <sup>よ</sup>我等に聴き <sup>とき</sup>給え、 <sup>われら</sup> <sup>き</sup> <sup>たま</sup>

アリル イ ヤ、 アリル イ ヤ、  
ア リル イ ヤ。

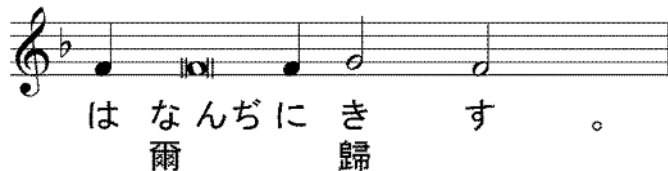
【 <sup>エヴァンゲリオン</sup> 福音經 ルカ福音書71端 13章10~17節 】

代禱) <sup>えいち</sup> 睿智、

誦經) <sup>でん</sup>ルカ傳の聖 <sup>せい</sup>福音 <sup>ふく</sup>經の <sup>いん</sup>讀、 <sup>けい</sup> <sup>よみ</sup>

しゅよ、 こう え い は なんぢに き し、 こう え い  
主 光 榮 爾 歸 光 榮





は なんぢに き ず 。  
爾 歸

代禱) <sup>つつし</sup>謹 <sup>き</sup>みて聴くべし、

誦經) <sup>か</sup>彼の <sup>とき</sup>時 <sup>あるむら</sup>イスス或 <sup>い</sup>村 <sup>らいびょうしゃじゅうにんかれ</sup>に入るに、癩 <sup>むか</sup>病 <sup>とお</sup>者 <sup>た</sup>十 <sup>こえ</sup>人 <sup>あ</sup>彼 <sup>い</sup>を <sup>い</sup>迎 <sup>い</sup>え、<sup>い</sup>遠 <sup>い</sup>く <sup>い</sup>立 <sup>い</sup>ち <sup>い</sup>て、<sup>い</sup>聲 <sup>い</sup>を <sup>い</sup>揚 <sup>い</sup>げ <sup>い</sup>て <sup>い</sup>曰

<sup>え</sup>り、<sup>い</sup>イス <sup>い</sup>ス <sup>い</sup>夫 <sup>い</sup>子 <sup>い</sup>よ、<sup>い</sup>我 <sup>い</sup>等 <sup>い</sup>を <sup>い</sup>憐 <sup>い</sup>め。<sup>い</sup>イス <sup>い</sup>ス <sup>い</sup>彼 <sup>い</sup>等 <sup>い</sup>を <sup>い</sup>視 <sup>い</sup>て、<sup>い</sup>曰 <sup>い</sup>え <sup>い</sup>り、<sup>い</sup>往 <sup>い</sup>き <sup>い</sup>て、<sup>い</sup>己 <sup>い</sup>を <sup>い</sup>司 <sup>い</sup>祭 <sup>い</sup>等

<sup>しめ</sup>に <sup>い</sup>示 <sup>い</sup>せ。<sup>い</sup>彼 <sup>い</sup>等 <sup>い</sup>往 <sup>い</sup>く <sup>い</sup>時 <sup>い</sup>潔 <sup>い</sup>ま <sup>い</sup>れ <sup>い</sup>り。<sup>い</sup>其 <sup>い</sup>中 <sup>い</sup>一 <sup>い</sup>人 <sup>い</sup>、<sup>い</sup>己 <sup>い</sup>の <sup>い</sup>愈 <sup>い</sup>さ <sup>い</sup>れ <sup>い</sup>し <sup>い</sup>を <sup>い</sup>見 <sup>い</sup>て、<sup>い</sup>返 <sup>い</sup>り <sup>い</sup>て、<sup>い</sup>大 <sup>い</sup>聲 <sup>い</sup>を <sup>い</sup>以 <sup>い</sup>て

<sup>か</sup>神 <sup>い</sup>を <sup>い</sup>讚 <sup>い</sup>榮 <sup>い</sup>し、<sup>い</sup>イス <sup>い</sup>ス <sup>い</sup>の <sup>い</sup>足 <sup>い</sup>下 <sup>い</sup>に <sup>い</sup>俯 <sup>い</sup>伏 <sup>い</sup>し <sup>い</sup>て <sup>い</sup>感 <sup>い</sup>謝 <sup>い</sup>せ <sup>い</sup>り、<sup>い</sup>彼 <sup>い</sup>は <sup>い</sup>サ <sup>い</sup>マ <sup>い</sup>リ <sup>い</sup>ヤ <sup>い</sup>の <sup>い</sup>人 <sup>い</sup>な <sup>い</sup>り。<sup>い</sup>イス <sup>い</sup>ス <sup>い</sup>曰 <sup>い</sup>え

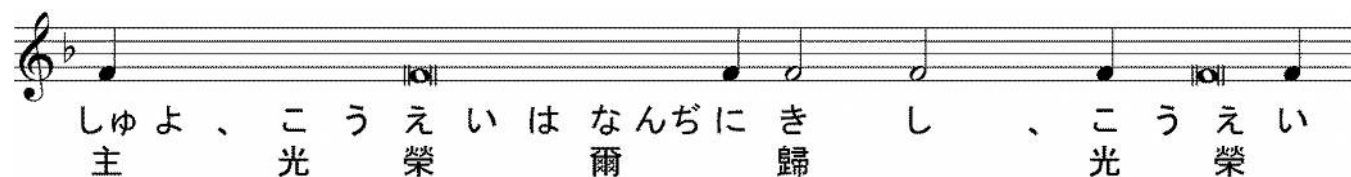
<sup>り</sup>、<sup>い</sup>潔 <sup>い</sup>ま <sup>い</sup>り <sup>い</sup>し <sup>い</sup>者 <sup>い</sup>は <sup>い</sup>十 <sup>い</sup>人 <sup>い</sup>に <sup>い</sup>非 <sup>い</sup>ず <sup>い</sup>や、<sup>い</sup>其 <sup>い</sup>九 <sup>い</sup>は <sup>い</sup>何 <sup>い</sup>處 <sup>い</sup>に <sup>い</sup>在 <sup>い</sup>る <sup>い</sup>か、<sup>い</sup>此 <sup>い</sup>の <sup>い</sup>異 <sup>い</sup>族 <sup>い</sup>人 <sup>い</sup>の <sup>い</sup>外 <sup>い</sup>、<sup>い</sup>如 <sup>い</sup>何 <sup>い</sup>ぞ <sup>い</sup>返 <sup>い</sup>り

<sup>て</sup>、<sup>い</sup>光 <sup>い</sup>榮 <sup>い</sup>を <sup>い</sup>神 <sup>い</sup>に <sup>い</sup>歸 <sup>い</sup>せ <sup>い</sup>ざる。<sup>い</sup>又 <sup>い</sup>彼 <sup>い</sup>に <sup>い</sup>謂 <sup>い</sup>え <sup>い</sup>り、<sup>い</sup>起 <sup>い</sup>ち <sup>い</sup>て <sup>い</sup>往 <sup>い</sup>け、<sup>い</sup>爾 <sup>い</sup>の <sup>い</sup>信 <sup>い</sup>は <sup>い</sup>爾 <sup>い</sup>を <sup>い</sup>救 <sup>い</sup>え <sup>い</sup>り。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) イエスがある村にはいられると、十人のらい病人に出会われたが、彼らは遠くの方で立ちとどまり、声を張りあげて、「イエスさま、わたしたちをあわれんでください」と言った。イエスは彼らをごらんになって、「祭司たちのところに行って、からだを見せなさい」と言われた。そして、行く途中で彼らはきよめられた。そのうちのひとり、自分がいやされたことを知り、大声で神をほめた。たえながら帰ってきて、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。これはサマリヤ人であった。イエスは彼にむかって言われた、「きよめられたのは、十人ではなかったか。ほかの九人は、どこにいるのか。神をほめたたえるために帰ってきたものは、この他国人のほかにはいないのか」。それから、その人に言われた、「立って行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのだ」。

\*\*\*\*\*



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮



は なんぢに き ず 。  
爾 歸

※代式祈禱③へ